

3 ソフトウェア 編



Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

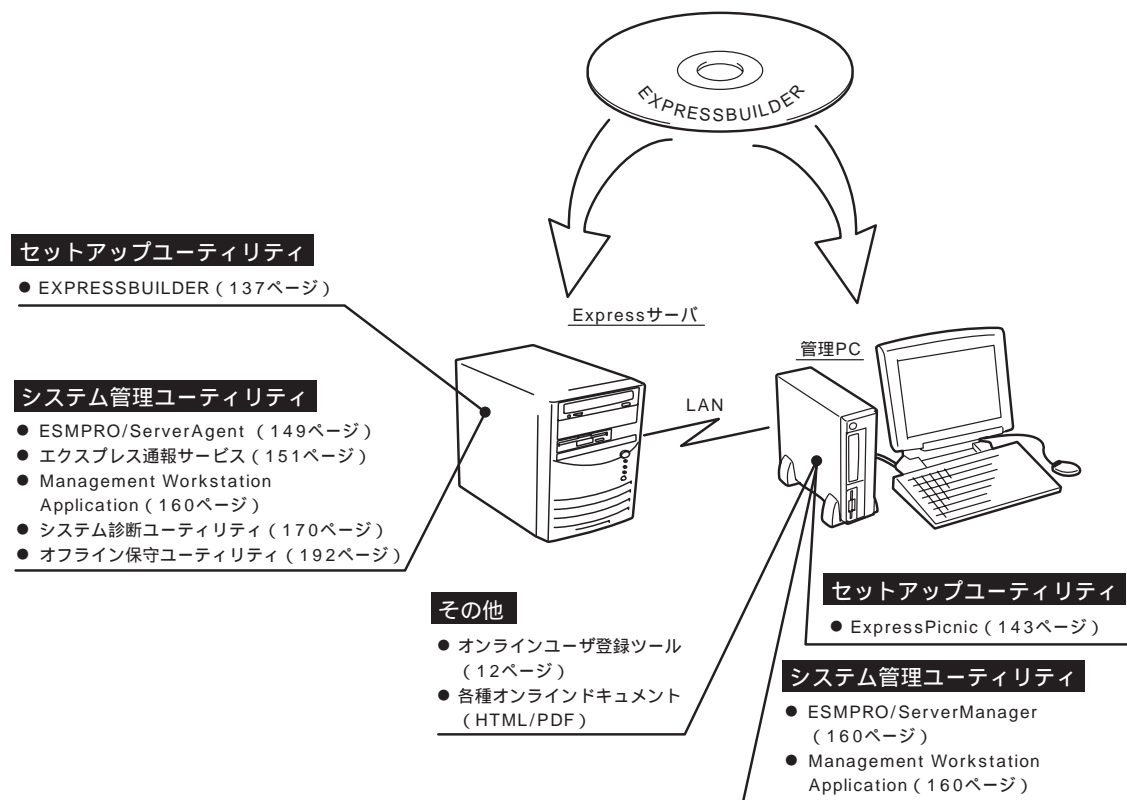
添付のCD-ROMについて(136ページ)	Expressサーバに添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているソフトウェアについて紹介します。
EXPRESSBUILDER(137ページ)	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
ExpressPicnic(143ページ)	シームレスセットアップ用パラメータディスク(セットアップパラメータFD)を作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。
Express本体用バンドルソフトウェア(149ページ)	Expressサーバにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
管理PC用バンドルソフトウェア(160ページ)	Expressサーバを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、Expressサーバの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、Expressサーバの設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください(これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません)。

- ESMPRO/UPSController Ver. 2.0(154ページ参照)
- PowerChuteplus Ver. 5.11(158ページ参照)

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの際にはハードウェアの構成を運用時と同じ状態にしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpressサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。この方法でExpressサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からExpressサーバをセットアップします。



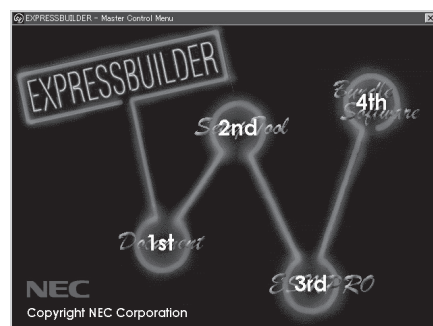
- Expressサーバ以外のコンピュータ、およびEXPRESSBUILDERが添付されていたExpressサーバ以外のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows 95/98、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。

マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

EXPRESSBUILDER トップメニューはハードウェアのセットアップ、およびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

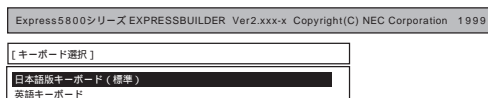
次の手順に従ってEXPRESSBUILDER トップメニューを起動します。

1. 周辺装置、Expressサーバの順に電源をONにする。
2. ExpressサーバのCD-ROMドライブへEXPRESSBUILDERと印刷されたCD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセット(<Ctrl> + <Alt> + キーを押す)するか、電源をOFF/ONしてExpressサーバを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

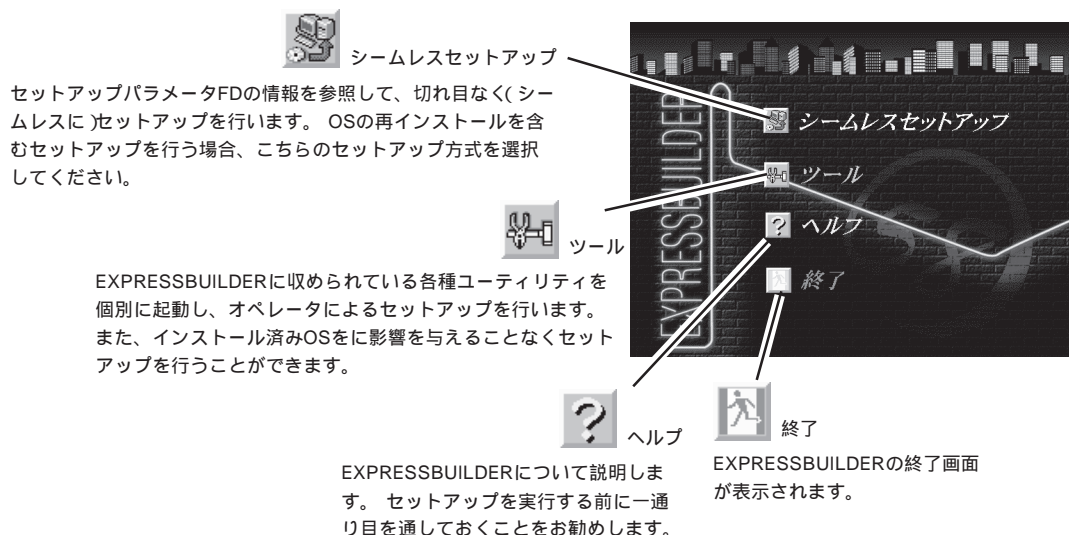
キーボードの選択

EXPRESSBUILDERを初めて起動すると、キーボードの選択メニューが現れます。購入したシステムで使用するキーボードを選択してください。なお、このメニューは、1度設定を行うと以降は表示されません。



1度設定を行った後、キーボードの設定を変更したい場合は、EXPRESSBUILDER起動中(画面中央部に「EXPRESSBUILDER」のロゴ表示があるとき)に<K>キーを数秒間押してください。画面にキーボード選択画面が現れ、キーボードの再設定ができます。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDER トップメニューが現れます。



シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows 2000/Windows NT 4.0) 各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

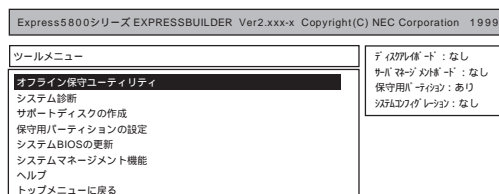
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。



「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。



● オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。詳細は192ページ、またはオンラインヘルプを参照してください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動されます。170ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要なサポートディスクを作成します(空きフロッピーディスクはお客様でご用意ください)。なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- Windows NT 4.0 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows NT 4.0やSBSをインストールするときに必要なサポートディスクを作成します(Windows NT 4.0を「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

- MS-DOS起動ディスク

MS-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

- システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「各種ユーティリティのインストール」以外の項目は表示されません。



「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、Expressサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

- 保守用パーティションの作成

16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します。保守用パーティションの確保ができた場合、または、既に保守用パーティションが確保されている場合は、続けて各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

- 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ共通部をCD-ROMから保守用パーティションへインストールします。

- FDISKの起動

MS-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● システムBIOSの更新

インターネットで配布される「BIOS updateデータ」を使用して、本体装置のシステムBIOSを更新することができます。「BIOS updateデータ」については、次のホームページに詳しい説明があります。

Express5800 『58番街』: <http://www.express.nec.co.jp>

システムのBIOSを更新する手順は次のとおりです。



システムBIOS更新プログラムが更新作業をしている間は本体装置の電源をOFFにしないでください。更新作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。「BIOS updateデータ」に含まれる「README.TXT」にはシステムBIOS更新の手順や注意事項が記載されています。記載内容を確認した上でシステムBIOSを更新してください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。

1. 「BIOS updateデータ」フロッピーディスクを作成する。

インターネットで配付される「BIOS updateデータ」を使用してフロッピーディスクを作成します。



フロッピーディスクへの格納方法は、同時に配付される「README.TXT」を参照してください。

2. 「BIOS updateデータ」フロッピーディスクへ更新作業に必要なプログラムを転送する。

EXPRESSBUILDERが自動的にCD-ROMからフロッピーディスクにファイルを転送します。

3. BIOS更新プログラムを起動する。

ファイル転送が終了すると、自動的にExpressサーバは再起動して「BIOS updateデータ」フロッピーディスク内のBIOS更新プログラムが起動します。

更新作業を終了すると、次のメッセージが表示されます。

Flash memory has been successfully programmed
PRESS ANY KEY TO RESTART THE SYSTEM
If the system does not restart,
TURN THE POWER OFF, THEN ON

4. フロッピーディスクを取り出し、任意のキーを押す。

Expressサーバが更新されたBIOSで再起動します。

- システムマネジメント機能(システムマネジメントの設定)

通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行います。

- ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

- トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

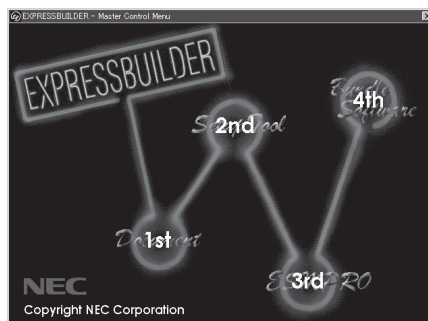
Windows 95/98、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



ヒント

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE



マスターコントロールメニューからは、Windows 95/98、Windows 2000、Windows NT で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントの参照を行うことができます。



チェック

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは185ページを参照して関連付けを再設定してください。



ヒント

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに「Bundle Software」の「Acrobat Reader」を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれのカテゴリ名をクリックするか、右クリックしてポップアップメニューを表示します。メニューのそれぞれの項目を選択すると、各ユーティリティの実行またはインストールが開始されます。



例) ポップアップメニューの階層

終了する場合は、ポップアップメニューの終了を選択するか、ウインドウ右上の[X]ボタンを押してください。



重要

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、Expressサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressサーバをセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000、またはWindows NT 4.0をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows 2000、または、Windows NT 3.51以降、Windows 95/98で動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストールします。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98

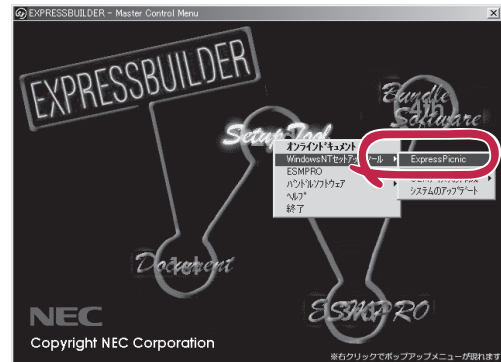
Windows 2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。



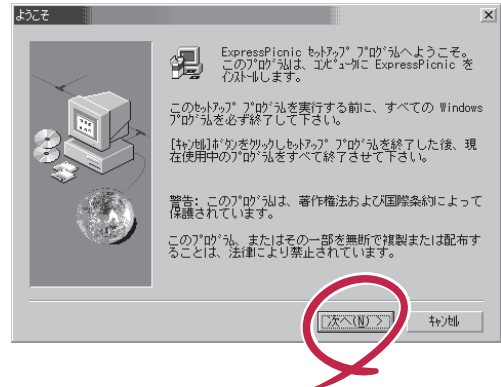
お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、同じ手順でセットアップすることができます。

1. OSを起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
マスターコントロールメニューが表示されます。
3. 画面上で右クリックするか、[2nd]
(Setup Tool)を左クリックする。
メニューが表示されます。

4. [ExpressPicnic] をクリックする。
セットアップウィザードが起動します。



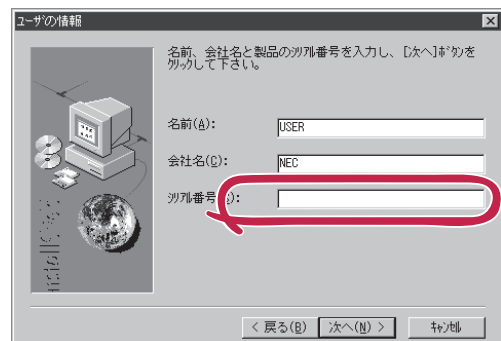
メッセージに従ってインストールを続けてください。



チェック

[ユーザの情報]ダイアログボックスの[シリアル番号]を入力する必要はありません。

インストールを完了したら[終了]ボタンをクリックし、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。



Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

1. Windows NT 3.51を起動する。
2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。

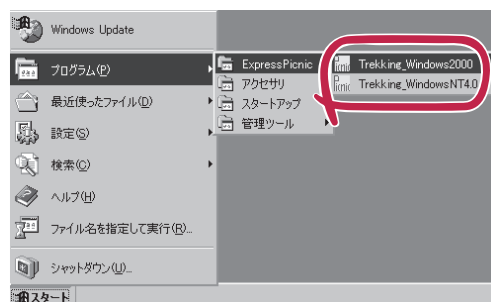


手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

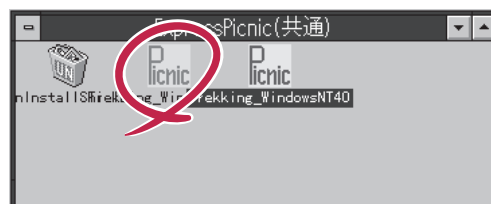
<Windows 2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98の場合>

スタートメニューから[プログラム]-[ExpressPicnic]-[Trekking]の順にポイントし、インストールしたいOS ([Windows NT 4.0]、または[Windows 2000])をクリックする。



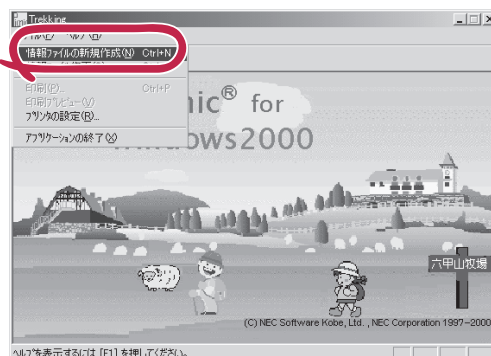
<Windows NT 3.51の場合>

プログラマナーの [ExpressPicnic] グループから [Trekking] アイコンをダブルクリックする。



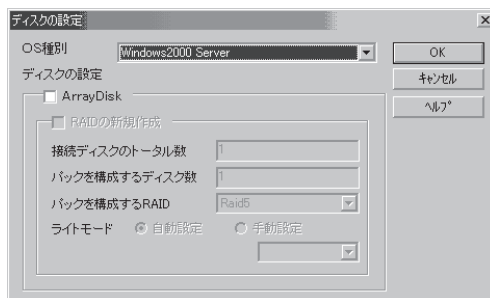
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]ボタンをクリックする。

[NEC 基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



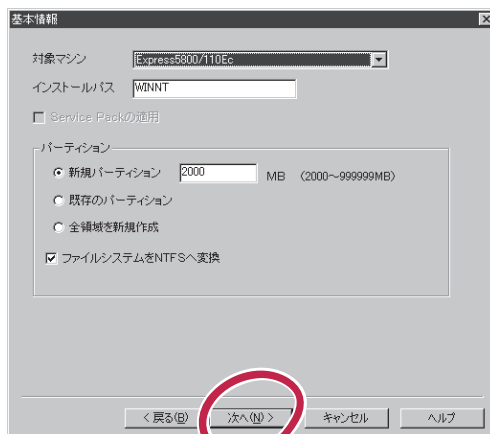
4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]ボタンをクリックする。



チェック

[キャンセル]ボタンをクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、[ファイルの保存]ダイアログボックスが表示されます。



5. [セットアップパラメータFDの作成] チェックボックスをオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

6. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。



「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000やWindows NT 4.0をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



ヒント

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnic ウィンドウの[情報ファイルの修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicを起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します。



チェック

- この機能は、Windows NT 4.0のみサポートしています。
- ユーザ/グループ情報は採取できません。
- リモートアクセスサービス(RAS)については設定情報を採取できません。
- アプリケーションで設定情報を採取できるのは、ESMPRO/ServerAgentだけです。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(145ページ参照)

2. [オプション]メニューの[現マシンから情報取得]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。
初期値が、取得したデータになっている
ことを除けば「情報ファイルの新規作成」、
あるいは「情報ファイル修正」と同じ
です。



大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。



チェック

- この機能は、Windows NT 4.0のみサポートしています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(145ページ参照)

2. [オプション]メニューの[大量インストール]をクリックする。



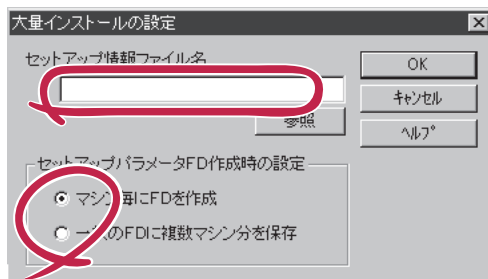
3. ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定する。
4. [セットアップパラメータFD作成時の設定]からどちらかのオプションを選択する。

[マシン毎にFDを作成]

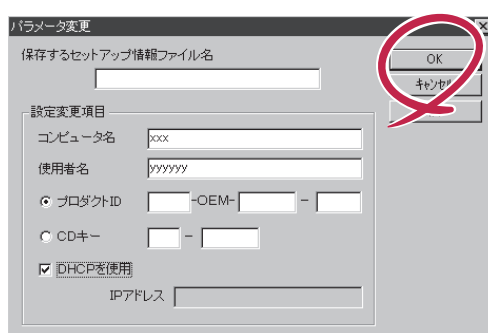
1枚のセットアップパラメータFDにセットアップ情報ファイルを1つセーブします。

[一枚のFDに複数マシン分を保存]

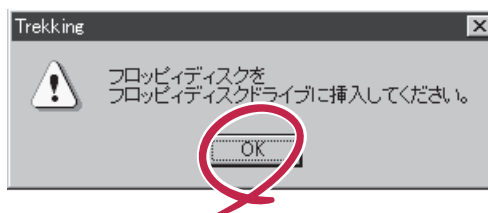
1枚のセットアップパラメータFDに複数のセットアップ情報ファイルをおさめます。



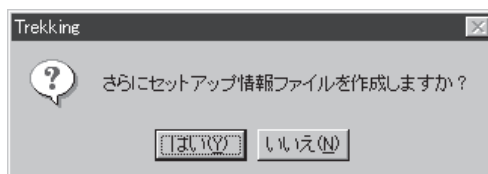
5. [OK]ボタンをクリックする。
6. マシンごとに変更する必要があるパラメータのみ修正して、セットアップ情報を作成する。
ダイアログボックスが表示されます。
7. 必要な設定を終えたら、[OK]ボタンをクリックする。



8. フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]ボタンをクリックする。
しばらくすると、さらに情報ファイルを作成するかどうかの確認があります。



9. セットアップ情報を作成するときは、[はい]ボタンをクリックする。
セットアップ情報を作成するダイアログボックスが表示されます。
[いいえ]ボタンをクリックすると、ExpressPicnicウィンドウに戻ります。



チェック

[マシン毎にFDを作成]を選択した場合は、セットアップ情報ファイルを作成するたびにフロッピーディスクのセットを要求されます。[一枚のFDに複数マシン分を保存]を選択した場合は、同じフロッピーディスク上に作成したファイルをおさめるため、フロッピーディスクをセットする要求は1度しかありません。

Express本体用バンドルソフトウェア

Expressサーバにバンドルされているソフトウェアの紹介、およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)はWindows 2000/Windows NTで運用しているExpressサーバにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)インストールガイド」を参照してください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)を動作させるためにはWindows 2000/Windows NTのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

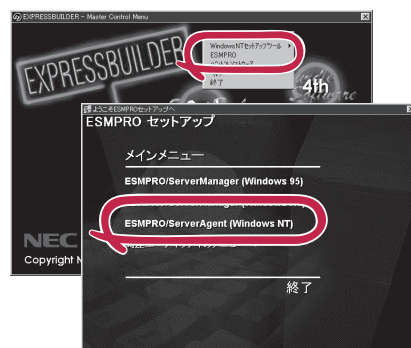
コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)のインストールは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使用します。Expressサーバ上のWindows 2000/Windows NT 4.0が起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ESMPRO]-[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。



ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentまたはESMAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent(Windows NT版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Expressサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてインストールし直してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITool)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス] [サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 6.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 2.0MB以上
- モデム
ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由エクスプレス通報用指定モデム(COMSTARZ MULTI 144II、288、336、560、560IIのいずれか)
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- Microsoft® Windows® 2000 日本語版(Server/Advanced Server/Professional)
- Microsoft® Windows NT® operating system Version 4.0日本語版(Server/Workstation)
- ESMPRO/ServerAgent Ver.3.1以降

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.0

BTQ (ビルド・トゥ・オーダー) でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.0 について説明します。



添付のCD-ROM『EXPRESSBUILDER』には、本ソフトウェアは格納されていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

出荷時にインストール済みのESMPRO/UPSControllerは、デフォルト値のままになっている場合があります。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[コントロールパネル] の [サービス] を開き、[SPOC-I Service] を開始してください。
すでに、[SPOC-I Service] が開始されている場合はそのままでもかまいません。[コントロールパネル] を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

確認1 イベントビューアによる確認

Windows NTの「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [スタート] メニューの [プログラム] - [管理ツール] - [イベントビューア] を起動する。
2. [イベントビューア] のメニューバーから [ログ] を選択し、[システム] を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から [ソース] 名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの [詳細] を表示し、以下のイベントの [説明] があることを確認する。

[正常] UPS通信開始

[異常] UPS通信エラー(無応答)

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO / UPSControllerの設定を変更してください。

確認2 ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[ESMPRO_UPSController]-[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。

[正常]	UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示される。
[異常]	UPS情報の「商用電源の値(V)」、「商用最大電圧の値(V)」、「商用最小電圧の値(V)」、「負荷容量の値(%)」等が表示されない。

 この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[ESMPRO_UPSController]-[UPSController マネージャ]を起動する。
起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
2. [UPSController マネージャ]のメニューバーより、[設定]-[動作環境の設定]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

使用するUPSを正しく設定する。

インテリジェントUPS I-UPS PRO
(型番: N8580-28/29/28AC/29AC)
インテリジェントUPS BP-XI
(型番: N8580-27)
インテリジェントUPS BP-XI-RM
(型番: N8580-07/08)
インテリジェントUPS BP-XC
(型番: N8542-19/20)

ESMPRO/AutomaticRunningControllerと連携して使用する場合に「する」を設定する。(連携して使用しない場合は、必ず「しない」に設定してする。)

3. 正しく設定した後、[UPSController マネージャ]のメニューバーより、[ファイル]-[上書き保存]を選択し、設定を保存する。
4. [コントロールパネル]の[サービス]を開き、[SPOC-I Service]を再起動する。
5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver2.0を新規にインストールする手順を説明します。

アップデートFDの作成

ESMPRO/UPSController Ver2.0のアップデート用インストーラをフロッピーディスクへコピーします。

このアップデート用インストーラは、工場出荷時に下記の場所へ格納されています。必ず、フロッピーディスクへコピーしてください。

アップデートモジュールの格納場所

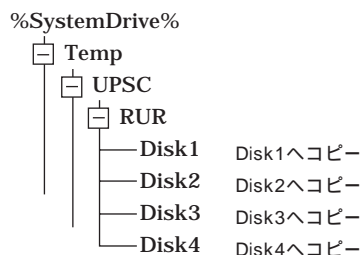
%SystemDrive%:\temp\UPSC\RUR\Disk1

%SystemDrive%:\temp\UPSC\RUR\Disk2

%SystemDrive%:\temp\UPSC\RUR\Disk3

%SystemDrive%:\temp\UPSC\RUR\Disk4

(上記Disk1～Disk4の中のファイルをそれぞれフロッピーディスクへコピーします。フロッピーディスクのラベルに「Disk1」～「Disk4」と名前を明記してください。)



ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.0(UL1047-301)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver2.0(UL1047-301)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。

ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」-「設定」-「コントロールパネル」-「サービス」で次のサービスを停止する。
 - SPOC-I Service
 - ESMPRO/ARC Service
 - SNMP Service
4. 「アップデートFDの作成」で準備したフロッピーディスクの中から「Disk1」をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「Disk1」の中にある「RUR.EXE」を起動する。
「修正モジュールの適用」画面が表示され、ESMPRO/UPSControllerのアップデートモジュールのコピーが開始されます。
6. 「修正モジュールの適用」画面が終了したら、下記ファイルが更新されていることを確認する。

ESMPRO/UPSController Ver.2.052 更新ファイル一覧

ファイル名	ファイルサイズ(バイト)	タイムスタンプ	
%xxxx%Spoc.exe	23,552	99-06-30	17:16
%xxxx%Spocmgr.hlp	927,382	99-04-21	18:26
%xxxx%Spocmgr.cnt	3,526	99-04-21	18:24
%xxxx%spocmgr.exe	615,424	99-07-27	18:06
%xxxx%SPOCGRPH.exe	264,192	99-02-14	21:41
%xxxx%Spocdvol.txt	608	99-02-15	17:32
%yyyy%SPOCUPS.dll	238,080	99-06-30	17:16
%yyyy%Spocmsg.dll	24,576	99-04-13	16:03

xxxx = %SystemDrive%\Program files\ESMPROUC
yyyy = %SystemDrive%\Winntxx\System32

セットアップ時の規定値

7. 更新ファイルを確認後、システムを再起動する。
8. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

ESMPRO/UPSController Version 2.052

以上でアップデートは終了です。

PowerChuteplus Ver.5.11J

BTQビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChuteplus Ver.5.11Jについて説明します。



添付のCD-ROM『EXPRESSBUILDER』には、本ソフトウェアは格納されていません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

Expressサーバのモデルの中には出荷時に「PowerChuteplus」がインストール済み場合があります。ただし、PowerChuteplusはデフォルト値の状態です。ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChuteplusサービス(UPS-APC PowerChuteplus Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChuteplus Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

確認1 イベントビューアによる確認

Windows NTの「イベントビューア」でPowerChuteplusが正常に起動していることを確認してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[管理ツール]-[イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

[正常] UPSとの通信が確立しました。

[異常] UPSとの通信が確立できません。

このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChuteplusの設定を変更してください。

確認2 PowerChuteplusのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

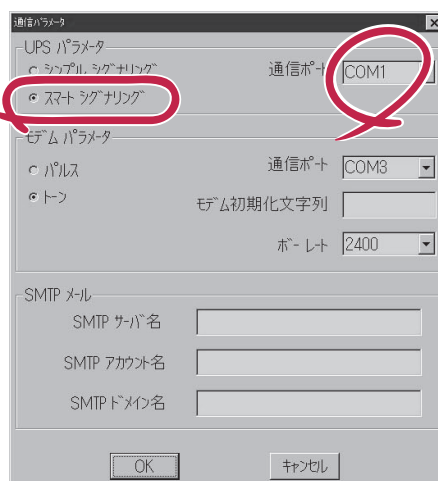
1. [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChutePLUS]-[PowerChutePLUS]を起動する。
起動方法の詳細はPowerChuteplusの「インストールガイド」を参照してください。
2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
[正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。
[異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
この後の「設定変更」を参照してPowerChuteplusの設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChuteplus]-[PowerChuteplus]を起動する。
起動方法の詳細は、PowerChuteplusの「オンラインヘルプ」、またはPowerChuteplusに添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。
2. [PowerChuteplus]のメニューバーより、[構成]-[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。

通信シグナルが「スマートシグナリング」であることを確認する。



コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、[OK]ボタンをクリックし、「PowerChuteplus」のメニューバーより、[システム]-[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。
4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChuteplusの新規インストール(再インストール)については、PowerChuteplusに添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

Expressサーバをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたExpressサーバをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

MWA ~ Management Workstation Application ~

MWA(Management Workstation Application)のインストールおよび起動方法、セットアップについて説明します。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内の以下のパスに格納されている「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

CD- ROMドライブ:¥mwa¥fsg99.pdf、およびfsg98_2.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

MWAについて

MWA は、ネットワーク上から管理PC(ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、Expressサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。

管理PCとExpressシリーズ間の通信方法について

MWAを使用する管理PCがLANでExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。

MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズの専用拡張BIOS(RomPilot)と接続することにより以下の機能を実現しています。

- リモートコンソール機能

Express5800シリーズのPOST実行画面、およびMS-DOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るができます。またこの間、Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

- リモートドライブ機能

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからExpress5800シリーズを起動することができます。

- リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行えます。

- パワーON
- リセット(POST時のみ)

- リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートでCMOS、DMI、ESCD、PCI情報を収集することができます。

- ESMPROとの連携

Express5800シリーズのRomPilotからのリセットやPOSTエラーなどの通報を受信すると、通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

● 管理PC(インストールするコンピュータ)

- コンピュータ Windows 95/98、Windows NT 4.0、または Windows 2000で動作しているコンピュータ
- メモリ OSの動作に必要なメモリ + 5MB以上
- ハードディスクの空き容量 5MB以上
- LAN接続 TCP/IPネットワーク
ESMPRO/ServerManager Ver.3.3以上がインストールされていること

● MWAでリモート保守する装置

Express5800シリーズの添付ユーザズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMC、SMCのいずれかが搭載されています。本装置にはRomPilotが搭載されています。

BMC搭載装置と比較して使用可能な機能が限られますのでご注意ください。

MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、管理PC側にMWA Managerをインストールしてください。

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

MWA Agentのインストール

MWA Agentは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使ってExpress本体にインストールします。

1. Windows 2000、またはWindows NT 4.0を起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

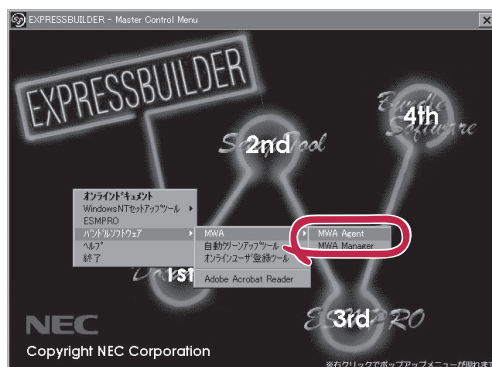
3. [4th [Bundle SoftWare) - [MWA] の順にクリックする。



右図のようにメニュー上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Agent] をクリックする。

MWA Agentのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



MWA Managerのインストール

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windows 2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98を起動する。

2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

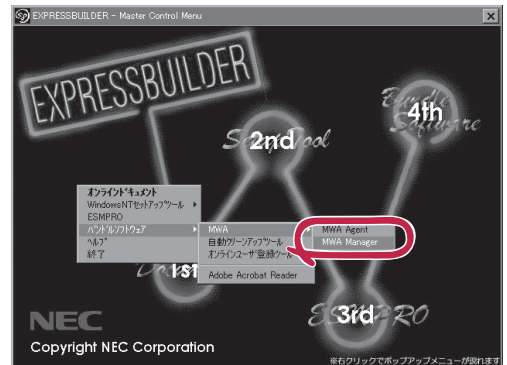
3. [4th [Bundle SoftWare) - [MWA]の順にクリックする。



右図のようにメニュー上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



Express5800シリーズのリモートマネジメントコンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次の通りです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

リモート管理するExpress5800シリーズの装置台数分の以下の設定情報が必要です。

Express5800シリーズモデル名
コンピュータ名
IPアドレス
サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ
パスフレーズ

コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ装置側の両方必要です。詳細な手順については、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」内にある「MWAファーストステップガイド」または、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

このページはブランクページです。